

平成25年度茨城県立坂東総合高等学校自己評価表

別紙様式2

目指す学校像	(ア) 一人一人の生徒を大切に、きめの細かい指導を行う学校。 (イ) 一人一人の個性を伸ばし、自己実現を図る学校。 (ウ) 地域に開かれ、社会に貢献する学校。 (エ) よりよい自然環境、生活環境に配慮する学校。					
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況		
チームティーチングや習熟度別学習を取り入れたきめ細かな教育活動を展開し基礎学力の向上に努めたい。授業参観などの校内研修を充実し、分かる授業の工夫を図りたい。		ア 基礎学力の向上を図る。	①生徒一人ひとりの能力に応じた分かりやすい授業の創意工夫により、各教科・科目の興味・関心を高め学力の向上を図る。 ②チームティーチングや習熟度別授業の充実を図る。	A		
スクールカウンセラーを年間を通して活用し、不登校や自虐的傾向の生徒などのフォローにあたりたい。また、交通事故防止に努め、公衆道徳やマナーの充実を図りたい。		イ 基本的な生活習慣の確立を図る。 ウ 教育相談の充実を図る。	③規律ある学校生活を送るため、ホームルーム活動や年次集会、学校行事等を通して、正しい判断による自己表現力と豊かな人間関係の醸成を図る。 ④心の健康を大切に、生徒の心の悩みを解決するため、教育相談の充実を図る。	B A		
部活動では参加生徒が少ないので、活性化を図り、結果を残せるよう一層の努力と工夫を重ねたい。		エ 特別活動の活性化を図る。	⑤部活動に意欲的に参加し、活動が継続できるように顧問教師と部員及び部員相互の望ましい人間関係の醸成に努め、部活動の活性化を図る。 ⑥HR活動・生徒会活動・学校行事の活性化を図る。	B		
産業社会と人間の授業やインターンシップを通して、望ましい職業観や勤労観の養成に努めた。公開講座ジョイ猿島として、食品加工講座・コンテナガーデニング講座等を開設し、地域との連携・交流に努め、地域貢献を図るとともに、地域からの信頼確保に努めた。		オ 進路指導の充実を図る。 カ 特色ある施設・設備を生かした地域との連携交流を図る。	⑦人間としての在り方生き方を学び、進路意識を高める。 ⑧インターンシップを通し、望ましい職業観や勤労観を養成し、生徒の進路意識の高揚に務める。 ⑨農業関連特有の施設・設備を最大限に生かして、食の安全安心等に係る、特色ある開放講座や体験講座を開設し、地域との連携・交流に努め、地域に貢献するとともに、地域からの信頼を確保する。	B A		
評価項目	具体的目標	具体的方策	番号	評価	次年度(学期)への主な課題	
教 務	地域や生徒の実態を把握し、特色ある教育課程の編成に努める。	中学校・地域との連携を図る。	⑨	A	中学校や地域との情報交換を密にする。	
		生徒の多様な進路に応じた教育活動の計画を立てる。	①②⑧	B		
		3年間を通した到達目標・指導計画の確立を図る。	①⑦	B		
	魅力ある学校生活を目指しながら、授業の量的確保と質的充実を図る。	行事等の能率的な運営を図る。	③⑥	A	A	曜日別授業時数の偏りを解消するように努める。
		授業終始時刻の厳守に努める。 出張・年休等における授業の確保(振替)に努める。	①③ ①	A B		
	自主的学習意欲を高める効果的な学習指導法の研究実践を図る。	各教科間の連携を密にし、生徒の実態に即した年間指導計画と、その計画に沿った学習指導ができるように努める。	①②	B	B	自宅学習の定着を図る。
		分かる授業の実践及び授業の創意工夫ができるように研究授業の実施に努める。	①②	B		
	系列の特色を生かし、魅力ある授業及び体験学習を展開し、学習意欲の向上を図る。	学習意欲の低い生徒・学力の低い生徒への計画的な指導を行う。	①②	A	A	系列の特色を生かした魅力ある授業の工夫に努める。
		進路実現のため資格取得などの具体的目標を設定し、学習に取り込む姿勢や学習意欲を高める指導の工夫改善を図る。	①②	A		
	職員研修を推進し、資質の向上を図る。	人権教育等についての教職員研修会を充実させる。	①	A	B	各種職員研修の実施を図る。
研修の成果や情報を教員間で共有できるように努める。		①	B			

生徒指導	基本的な生活習慣の確立をはかる。	週番活動並びにさわやかマナーアップ運動を展開し、正門立哨指導であいさつの励行に努める。	③	A	A	・継続的な服装指導を実施する。 ・遅刻指導を行う必要がある。	
		服装頭髪指導を定期的に行い、保護者と連携を密にして、きちんとした身だしなみを身につけさせる。	③	A			
	交通安全教育の充実を図る。	交通立哨指導を春・秋の交通安全運動期間と毎月交通安全の日に実施し、事故防止に努める。	③	A	A	・交通事故防止のため、意識の高揚を図る。 ・自転車点検を徹底し、継続指導に努める。	
		自転車点検を定期的に行い、不良箇所の改善と安全運転を呼びかける。	③	A			
		原付通学者に対して許可試験と実技講習会を実施し、交通ルールとマナーの確認並びに運転技術の向上に努める。	③	A			
		交通講話を開催し、生徒の安全意識の高揚を図り、事故防止に努める。	③	A			
	教育相談を充実し、生徒理解を深める。	二者面談を行い、生活状況把握や悩み事等の相談の機会を持ち、生徒理解に努める。	④	A	A	・生徒理解に関する研修会を実施し、生徒指導に活かす。 ・特に配慮が必要な生徒に対して、教職員の共通理解を図る。	
		三者面談を行い、家庭との連携を深める。	④	A			
		スクールカウンセラーを活用し、生徒の心の悩みを解決する。	④	A			
		生徒指導研修会を行い、生徒理解に基づいた指導方法の認識を深める。	④	B			
	問題行動の未然防止に努める。	校内巡回指導を行い、生徒の状況把握と問題行動の未然防止に努める。	③④	A	A	・校内外の巡回活動の整備、徹底を図り、問題行動の抑止とする。 ・学校のルールについてこのガイダンスを徹底し、問題行動の抑止力とする。 ・スマートフォンの安全な利用について、認識を深める	
		校外巡回指導を行い、地域関係機関と連携し、問題行動の未然防止に努める。	③④	A			
		ケータイ・ネット安全利用についての講習会を開催し、家庭での携帯電話利用に関するルールづくりやフィルタリングの利用促進を図る。	③④	B			
		不審者や校外での問題発生時に迅速に対応できるように努める。	③④	A			
	進路指導	人間としての在り方生き方の指導の一層の充実。	教育活動全体を通じたガイダンス機能の充実。	③⑦	A	A	・保護者への進路意識の高揚をどのようにするか。 ・進路意識のない生徒にどのような指導を行えばよいのか。
		望ましい職業観・勤労観の形成と主体的な進路選択能力の育成。	自らの意思と責任で、進路を主体的に選択する能力や態度を育成する指導の工夫。	③⑦⑧	A		
インターンシップの充実を図り、職業選択や職業適性について考えさせる機会を与える。			⑦⑧	A			
進路に対する理解と協力を得るための保護者への啓発。		進路相談の計画的・継続的な実施。	⑦	A			
保健厚生	心身の健康に対する意識を高める。	保健便りや保健ニュース等の掲示により、情報を提供する。	③④	B	A	・性教育講座の開催に大学生との提携をより深めていく。	
		教科「保健体育」と連携し、防止教室や性に関する講演会を実施する。	①③	A			
	校内環境の整備・充実を図る。	ゴミの分別処理を徹底し、トイレや手洗い場等における衛生管理の維持改善を図る。	③	A	A	・環境整備の備品充実と活動の円滑化を図る。	
		校内美化日を計画し、学習環境を整備する。	③	A			
	安全対策の強化に努める。	緊急対策マニュアルを周知徹底する。	③④	B	A	・地域との連携による防災力の強化を図る。	
危機意識を高め、安全確保につながるように避難訓練の内容を工夫する。	③	A					

図書	図書室の資料の充実に努める。	幅広い蔵書構成を考えながら、資料の充実を図る。	③	A	A	・視聴覚教材の活用をもっと推進したい。 ・校内読書感想文コンクールを2・3年生にも参加してもらえるようにする。	
	視聴覚資料の収集・整理・保管に努める。	職員・生徒の希望図書を購入する。	⑥	A			
	読書に興味関心を持たせるような指導に取り組む。	視聴覚教材を整理し、さらに授業や学校行事等で使用するビデオ・DVD等を購入し使いやすく提示する。	⑥	B			B
	図書委員会活動の活性化に努める。	校内読書感想文コンクールを実施する。	①	A			A
	図書室の広報活動に取り組む。	上記コンクール入選者の表彰および入選作品集を作成する。	①	A			A
	保護者の各行事への参加意欲の向上を図る。	カウンター作業や書架の整理をする。	⑥	A			A
渉外	継続的な重点行事を掲げその充実を図る。	各種統計を作成する。	⑥	A	A	総会、支部会の同日開催により出席率が50%に達することができた。今後もこのスタイルを継続したい。 同時開催は諸準備と計画の負担はあるが、勤務している保護者の負担を一部でも軽減できたと思う。 PTAだよりでは発行寸前で原稿ミスを発見、印刷所と相談して対応、1月遅れで発行することができた。	
	教職員と保護者の連携を密にし、生徒の健全育成を支援する。	図書館報、図書館だよりを発行する。	⑥	A			
	保護者の各行事への参加意欲の向上を図る。	新規購入図書や各種統計を掲示する。	⑥	A			
特別活動	生徒会活動を活発に行うようにする。	各行事に創意を加え、参加保護者の意欲向上をはかる。	⑨	B	A	生徒会活動に積極的に参加できるよう意識づけをさせる。 行事、ボランティア活動のスリム化を図り、より効率的な活動を行う。 継続的に部活動の入部率を維持できるようにする。	
	望ましい集団生活を通して、自主的・実践的な態度を育てる。	PTA総会とPTA支部会を同時開催し、保護者の負担軽減を図る。また内容の精選・充実を図り、その活動の支援を行う。	⑨	A			
	部活の推進をはかる。	PTA総会や支部PTA、PTAだよりなどで保護者と教職員間の連携を図る。	⑨	A			
	「さわやかマナーアップ」運動の取り組みとして、朝の立哨指導に参加させる。	学校行事の運営に積極的に携わる。	③⑥	A			
農場	勤労の尊さを自覚させ、働く喜びを感得させる。	文化祭で生徒の発表の機会を設ける。	③	A	A	農産改良普及センターとの連携に努める。 興味関心を高め、基礎的な知識・技術を習得させる。 各科目においてプロジェクト学習を展開することによって、学校農業クラブ活動の推進につなげる。	
	特色ある施設・設備を生かし、実験実習の充実を図る。	空き缶回収のボランティア・募金活動に積極的に参加させる。	③	A			
	プロジェクト学習を充実し、学校農業クラブ活動を推進する。	部活動見学期間を設け参加を働きかける。	⑤	B			B
事務	会計の効率的で適正な執行に努める。	インターンシップを通して望ましい勤労観・職業観を養成し、働く喜びを感得させる。	⑦⑧⑨	A	A	経年劣化の激しい施設・設備を適正に維持管理しつつ、教育活動に必要な施設・設備の充実に努める。	
	開かれた学校づくりをめざす。	生徒一人一人の能力に応じた実験・実習を展開し、興味関心を高め、基礎的な知識・技術を習得を図る。	①⑨	A			A
	施設、設備等の適正な管理に努める。	系統的プロジェクト学習の充実した展開を図る。また、各科目において学校農業クラブ活動を推進する。	①⑧⑨	B			B
事務	開かれた学校づくりをめざす。	教育活動が円滑に進められるよう適時・効果的な予算執行に努める。		A	A	経年劣化の激しい施設・設備を適正に維持管理しつつ、教育活動に必要な施設・設備の充実に努める。	
	施設、設備等の適正な管理に努める。	節電・節水に努め、光熱水費使用量の削減を図る。		B			
	開かれた学校づくりをめざす。	電話での応答や来校者への丁寧な対応に心がける。		A			B
事務	開かれた学校づくりをめざす。	学校行事等の広報に努める。	⑥⑨	B	A	経年劣化の激しい施設・設備を適正に維持管理しつつ、教育活動に必要な施設・設備の充実に努める。	
	施設、設備等の適正な管理に努める。	安全な教育環境を保持するため、施設・設備を適切に管理する。		A			A

1年次	規範意識の確立とけじめの行動	学年集会、ホームルームで校則、生徒心得を理解させる。	③	A	A	よりきめの細かい対応が必要である。
		高校生としての常識を身につけさせ、責任とけじめのある行動をとら	③	A		
		社会性が不足する生徒には、カウンセラーを積極的に活用する。	④	A		
1年次	潤いのある人間関係の確立	心と体の健康に気を配り、温かな人間関係を構築させる。	⑦	A	A	よりきめの細かい対応が必要である。発展させていきたい。
		謙虚な気持ちを植え付け、向上心を培っていく。	⑦	B		
		産業社会と人間によって幅広い進路選択が出来るように情報伝達を	③	A		
1年次	将来像の確立と進路の選択	より良い進路選択ができるよう一つ一つの授業を大切にす。	①	B	A	さまざまな機会をとらえ、指導していきたい。
		服装頭髪指導を定期的に行い、保護者と連携を密にして、きちんとした身だしなみを身につけさせる。	③	B		
		責任とけじめのある、落ち着いた行動と生活態度を身につける。	③⑥	B		
2年次	基本的な生活習慣の確立	誰に対しても優しい気持ちで接し、いじめのない明るい高校生活を送	③	B	B	個人面接を重視し、心の奥底に入った指導が必要である。
		保護者との連携を密にし、問題解決に向けて常に調和の心で対応す	④	A		
		インターンシップで進路意識を具体化させると共に勤労の大切さを実感させる。	⑦⑧	B		
2年次	潤いのある人間関係の構築	個別面談で生徒・保護者の意向を聞き、生徒の個性に応じた適切なア	⑦	A	A	将来に対する意識レベルが非常に低い。
		ドバイスを行う。				
		進路意識の高揚				
3年次	基本的な生活習慣の確立	進路実現に向け、身だしなみとしての服装・頭髪さらに言葉遣い等につ	③	A	A	
		いて生徒に繰り返し指導する。				
		保護者との連携を密にして生徒理解に努めると共に、最終年次としての充実した学校生活を送らせる。	③	A		
3年次	進路に応じた学力の向上。	検定・資格試験・模擬試験に挑戦することにより学力の向上を図る。	①	B	B	一般常識や基本的な計算・読み書き能力を向上させる必要がある 教科の協力も必要か
		総合学習の時間を利用し実践力を養う。				
		検定・資格試験に合格することにより進路実現の一助とする。	⑥⑦	B		
3年次	希望進路の実現。	総合学習の授業を通し実践的知識の向上を図る。	⑥⑦	B	B	進路希望と関連づけ各種検定・資格取得に積極的に挑戦する指導 また自分の気持ちを表現できる会話力・礼法の指導
		二者・三者面談を通して適性に応じた進学先・就職先を決定する。。	⑥⑦	B		
国語科	国語を的確に理解する能力を育てる。	漢字力を養成するために、授業において計画的・段階的な指導を行	①	B	B	授業計画の見直しを絶えず行う。
		う。				
		個々の生徒が、意見・感想を書くことができるような表現指導を行う。	①	B		
国語科	言語感覚を磨き、意思を伝える能力を育てる。	多くの作品に親しむことにより、多様な価値観に気づかせる。	①	B	B	生徒の実態に応じて対応する。

地歴・公民科	生徒の学力に応じた分かり易い授業展開する。	授業計画は都度都度見直し、生徒の実態に合わせて柔軟に変更する。	①	A	A	・引き続き生徒の学習上の問題点などの実態把握に努め、より適切な指導を目指す。
		授業終了後、指導内容・方法について点検し、改善すべき点を考える。	①	A		
	基礎学力の向上を推進する。	授業内容を基礎的・基本的事項に精選し、丁寧な解説を通じて確実に理解させる。	①	A	A	・生徒が自発的に復習できるように工夫する。・視聴覚教材の更なる充実を目指す。
		レジュメを配布し、生徒本人が学習内容を反復学習しやすいようにする。	①	B		
		練習問題プリント等を利用した復習を行い、学習内容の定着を図る。	①	A		
		定期考査の前には総復習を行い、考査後は定着度の低い部分について再度解説して学習させる。	①	A		
		視聴覚教材の積極的な利用を通じて、ビジュアルな形で理解を図る。	①	B		
	生徒が学習内容をより具体的に把握できるように、授業方法の改善に努める。	教科内の相談を密にし、授業内容・方法について互いにアドバイスし合う。	①	B	A	・教科内での情報・意見交換を一層密にし、相互の研鑽・協力・研修を強める。
		様々な機会を利用して自己研修に努め、その成果は教科会で互いに情報交換する。	①	A		
		年数回、教科全員で学校内外での研修会を企画し実施する。	①	A		
数学科	基礎学力の定着を図る	基礎学力検査の結果を利用して習熟度別授業や個に応じた指導を行う。理解が不十分な生徒へは補習等を実施し、理解度の向上を図る。	①	A	A	・基礎学力検査の内容を見直し、有効な評価が行えるようにする。 ・計算プリントの実施を定着させ、計算テストを実施刷る。 ・少人数制・習熟度別を活かし、数学が得意な生徒の力を伸ばす授業を行う。 ・苦手な生徒に対して考査対策を行う。
		習熟度別授業を行う1年次、数学が選択科目である2、3年次について受講人数が少ないことを生かし、机間指導を増やして個に応じた対応を心がける。	①	A		
	数学が分かる喜びを実感する授業への取り組みに努める	提出物の機会を増やし、こまめに生徒の学習状況を把握するよう努める。	①	A	A	・長期休業中の課題だけでなく、定期課題を用意する。 ・TTの特性を活かし、様々な教員が生徒に関わる授業を行う。 ・数学検定の問題を授業中に扱い、生徒に興味を持たせる。
		1年次のティームティーチングの授業においては、2人の教師の連携を密にし、協力して授業を実施する。	②	A		
		数学検定に向け、計画的、段階的な指導を行う。	①	A		
理科	知的好奇心や探究心を喚起し、自然に関する興味・関心を養う。	授業の展開に創意工夫をこらし、魅力ある教科指導に努める。	①	A	A	・生徒の実態に合わせて、基礎基本の徹底と分かりやすい授業を展開する。 ・観察・実験の時間のさらなる充実を図り、レポート等の書き方の指導を工夫し、生徒の科学的に考える力を養う。 ・実験器具や設備の充実を図る。
		科学的に自然を調べる方法や技術を身に付け、問題解決能力を養う。	①	A		
	自然に関わる基礎基本的な知識を身に付け、科学的な自然観を育成する。	重要事項をおさえ、必要に応じて反復練習や小テストを取り入れ、基礎基本の徹底を図る。	①	A	A	
		基礎基本から、自然を統合的にみる見方や科学的なものの見方を養えるよう、分かりやすく授業を展開する。	①	A		
英語科	基礎学力の定着を図る	音読指導に重点を置き、音読テストや口頭テストを生徒個別に実施するなど、音声面での基礎学力の定着を図る。	①	B	B	・声が出ない生徒が多いため、音声面での指導を強化する。 ・生徒の実態に合わせて教材を作り、一人ひとりの習熟度に応じた指導を心がける。
		習熟度別を併用した少人数授業を展開し、個々の能力に応じたきめ細かな指導を行う。	①	A		
	英語が分かる喜びを実感する授業の展開に努める	ALTとのティームティーチングを活用し、英語に興味・関心を抱かせる授業の創意工夫に努め、コミュニケーション能力の育成を目指す。	②	A	A	・ALTを有効に活用し、生徒がより意欲的にコミュニケーション活動に取り組めるよう指導する。 ・共通の教材を作成し、教科内での情報共有に努める。
		教師間の連携を密にして、協力して授業内容や指導法、教材を工夫改善する。	①	A		
	資格取得の充実を図る	英検取得に向けて、級別または個別に課外を実施し、計画的・段階的な指導を行う。	①	A	A	・より多くの生徒が英検を受験・取得できるよう、積極的に働きかける。

家庭科	家庭生活へ積極的に参加する意欲・関心を養う。	社会の最小単位である「家庭」について興味・関心をもたせる。	①	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・実習・実験の時間を確保し、基礎・基本の技術を習得させる。 ・生徒の実態に合わせた教材を選択し、自らが進んで取り組めるような授業内容を目指す。 ・現代の社会に対応した具体的な事例を提示し、五感に訴える授業を展開していく。 ・生徒ひとりひとりの習熟度に応じた指導を心がける。 ・教科内での情報共有に努める。 	
		高齢期を自分の一生の問題として考えることができるとともに、同時代を生きる高齢者との交流が図れるように、高齢者の生活、高齢者の介護についての基礎的な知識を習得させる。	①	B			
		子どもを持つことの意義を考えることができるとともに、子どもの心身の発達、乳幼児の基本的な生活課題、子どもの保育、児童福祉についての基礎的な知識を習得させる。	①	A			
家庭科	家庭生活に関する基礎的な知識と技術を習得させる。	実験・実習を通して衣生活・食生活・保育などの基礎的な知識・技術を習得させる。	⑧	A	A		
		家庭経営の立場から家庭生活の充実向上を図る能力を育てる。	消費生活・住生活などに関する基礎的な知識を習得させ、一人の家庭人・社会人として自立した生活が送れるように指導する。 ひとりひとりの消費行動が、資源・環境問題と大きく関わりのあることを理解させる。	③	B		B
保健体育科	基礎体力の向上を図る。	体力トレーニングを継続的に実施し、生徒の体力向上に努める。特に、必修種目については、生徒及び保護者に周知し完全実施に努める。	①	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・必修種目に関して、生徒及び保護者により周知徹底するように指導していく。 ・様々な体力トレーニングを検討していく。 	
		生徒の体力に合わせ、運動時間の確保に努める。	①②	A			
	集団行動の充実を図る。	集合、整とん、列の増減、方向変換、挨拶等を継続的に指導する。	③	A	A		・整列までの時間を短縮させるように、指導を継続していく。
保健体育科	基本的生活習慣の確立を図る。	健康の保持増進についての知識を学び、実践力の育成に努める。	①	B	B	・実習などの授業を増やし、実践力の育成に努めていく。	
		基礎学力の向上を図る。	生徒一人ひとりの能力に応じた分かりやすい授業の創意工夫を行う。	①	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・更に魅力ある芸術科の授業展開に努める。 ・一人ひとりが芸術を愛する精神的土壌を醸成できるような授業の展開を工夫する。
芸術科	感性と技術の向上を図る。	生徒が自主的に取り組む指導を図る。	②	B	B		
		魅力ある授業の展開を図る。	芸術における基礎・基本を身に付けさせ、感性を育てる。	①	B	B	
		資格取得の充実を図る。	生徒を引きつける魅力的な授業の展開を図る。	②	B	B	
情報科	情報機器の基礎的な知識と技術を高める。	硬筆検定・毛筆検定等の資格取得に向け、指導・助言を充分に行う。	①	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの基本的な動作についての基礎的な知識・理解の向上を図る。 ・情報を取捨選択することの必要性および、情報伝達の手段と特徴についての知識の向上を図る。 ・ネットワーク利用時のマナーおよび、個人情報の意味を理解し、流出の実態や被害、個人情報保護の対策について理解させる。 	
		情報通信ネットワークの適切な活用を積極的に取り入れる。	①	A	A		
	情報社会に参画する意欲の向上を図る。	中学校での学習の程度を踏まえ、生徒のレベルに合った指導を行う。	①	A	A		
商業科	基礎・基本的な学力の向上を図る。	実践的な実習を通して、基本的な情報機器活用の技能を習得させる。	①	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・資格取得に挑戦させるなど、目標を持った意欲的な学習を通して、知識・技術の習得に繋げる必要がある。 ・商業の学習と職業との関連について理解させることが必要である。 ・成功の体験を通して、自信を持たせる必要がある。 	
		興味・関心の持てる教材を活用し、分かりやすい授業展開に努める。	①	B			
	商業人として社会に通用する能力を育てる。	身近な話題を取り組む授業を展開し、学習内容の理解を深めさせる。	①	A	A		
	資格取得を支援する。	資格取得に対する意識付け等、資格取得に向けた指導を行う。	①	A	B		
商業科	資格取得を支援する。	補習等を行い、検定に合格できる能力を養う。	①	B	B		
判定基準	A: 大変良くできた B: 良くできた C: やや不十分 D: 不十分						

